

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和4年6月30日現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農福連携 福祉事務所とのマッチングによる委託作業開始

飛騨農林事務所では、農家と福祉事業者とのマッチングを支援し、農福連携の推進に取り組んでいる。

6月8日には、昨年度に成立したマッチングにより高山市内の夏秋トマト農家にて、福祉事業所から派遣された障がい者による下葉かきの委託作業が開始された。

農業普及課では、障がい者がいきなり農家に派遣されて戸惑わないよう、事前に中山間農業研究所での農作業体験をコーディネートしたほか、当日も下葉かきの方法など助言を行った。

この日は、派遣された5名が作業を行ったが、作業を委託した農家からは「思っていた以上に作業が早く満足。」との感想が聞かれた。

農業普及課では、今後も農福連携マッチングを通じた農業現場での多様な人材活用推進を継続する。



【障がい者による下葉かき】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■丹生川蔬菜出荷組合 全組合員を対象としたGAP研修会開催

6月29日、高山市丹生川町文化ホールにおいて、丹生川蔬菜出荷組合（組合員数241名）を対象にGAP研修会が開催された。

当日は、ソーシャルディスタンスを確保するなどコロナ対策を徹底した上で参集が図られ、出席者は180名を超えた。同組合ではGAP研修会への出席を必須と位置付けており、当日出席できなかった組合員には後日、研修を予定するなどGAPに対する意識の高さが伺える。

研修会では、新制度である「ぎふ清流GAP」の概要や県内取り組み事例について、ぎふ清流GAP推進センターから説明があった。

農業普及課からは、同組合が取り組む「ひだGAP」について、農産物への異物混入防止を中心とした管理項目の変更点や重点取り組み事項について解説し、組合員らの一層の実践を促した。



【熱心に聴講する組合員ら】

■大麦 赤かび病の発生調査を実施

飛騨地域では、高山市と白川村にある3経営体で約21haの大麦を栽培しているが、この時期に注意が必要なのが赤かび病で、罹病すると人体に影響のあるカビ毒が発生する恐れがある。

6月3日、農業普及課では6月下旬の収穫に向けて、各経営体のほ場を巡回し、赤かび病の発生調査を実施するとともに、今年の作柄について担当者間の情報共有を図った。

5月下旬には、赤かび病の発生しやすい気象条件が続いたが、各経営体が防除を実施した効果もあり、今回の調査では赤かび病の発生は確認されなかった。

農業普及課では、今後も病害虫調査や防除指導などを行い、安全・安心な農産物づくりを支援する。



【ほ場にて赤かび病調査】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 飛騨市「美味しいお米養成講座」を開催

各市村では、「飛騨こしひかり」のブランド力を強化するため食味の向上に取り組んでいるが、飛騨市では昨年から従来の水稲青空教室を拡充して、年3回「美味しいお米養成講座」を開催している。

6月25日には、古川町公民館にて第2回「美味しいお米養成講座」が開催され、水稲生産者39名が参加した。

当日は、農業普及課とJAひだの職員が講師を務め、美味しいお米づくりに向け、水管理や穂肥など今後の管理方法について講演を行った。終了後のアンケート調査では、わかりやすい内容で参考になったとの声が多く聞かれるなど好評であった。

第3回は、10月上旬頃に土づくりなど来作に向けた内容で予定されており、これまでと同様に好評を得られるよう支援を継続する。



【美味しいお米でブランド化】

■メロン 飛騨メロン研究会 現地研修会開催

6月14日、飛騨メロン研究会主催の現地研修会が行われ、生産者をはじめ種苗メーカーや市場関係者、全農岐阜、JAひだから約20名が参加した。

研修会では、会員2名のハウスを訪れ、栽培中のメロンを見ながら今年の生育状況や水やりなどの栽培管理の仕方について意見交流を行った。今回訪れた2名はいずれもベテランの生産者で、参加者からはメロンの出来栄えや栽培管理の的確さに感心する声が上がった。

農業普及課では、使用する農薬の最新情報を提供し、これまでとの変更点を解説するなど研究会の活動を支援した。



【ほ場にて熱心に意見交流】

■スナップエンドウ、グリーンピース 出荷物審査会を開催（吉城地域）

6月15日、吉城蔬菜出荷組合特産部会豆部会では、スナップエンドウ及びグリーンピースの出荷物審査会を開催した。

当日、出荷物を抜き打ちでスナップエンドウ9点、グリーンピース8点を部会役員、JA、全農、農業普及課からなる審査員が評価した。

気温が高くなりつつあり、栽培が難しい時期ではあるが、どの出荷物も消費者の目線に立った厳しい選別を行っていることが伺えた。

農業普及課では、今後も高品質なスナップエンドウ・グリーンピース生産のため、栽培指導を継続する。



【出荷物を抜き打ち審査】

■アスパラガス 飛騨市アスパラガス研究会員ほ場にて生育調査

飛騨市アスパラガス研究会では、会員11名が約90aのアスパラガスを栽培しており、4月から10月まで出荷が続く。

農業普及課では、出荷中盤となる6月下旬、各会員ほ場を巡回して立基本数や茎の太さを測定などの生育調査を行った。

立茎とは、夏芽に必要な養分を作るため芽を収穫せずに側枝を発生させることで、茎の太さとともに立基本数は栽培管理の目安となる。

農業普及課では、今回の調査結果を研究会にて共有し、会員間や他産地の数値と比較することで、今後の栽培管理の指針とする。



【アスパラガスの生育調査】